

出題分析			
試験時間	75 分	配点	200 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[ 減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 ]	難易度変化 (昨年比較)	[ 易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 ]
<b>【概評】</b> 〈現代文〉 2025 年の同一日程と比較すると、問題文の分量はやや増えたが、比較的読みやすかった。難易度は例年どおり。 〈古文〉 問題文の分量・設問の難易度はともに例年どおりの出題。設問数が多い点も例年どおりだが、近年は文学史を含む知識問題の出題が増加傾向にあるので注意しよう。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 渡辺裕 『歌う国民』  ○行数：176 行 <input checked="" type="checkbox"/>	明治時代の日本において、国民意識の確立のために西洋音楽が導入されたことを論じる文章。問十二の内容説明問題の選択肢イは「明治に入って間もなく」が不適當。問十三の内容説明問題は、傍線部直後の一文に着目する。問十四の内容合致問題の選択肢イ・ロは、それぞれ「日本の芸術文化を豊かにするために」「日本らしさを再確認」が不適當。 ※ (昨年度) 評論、145 行、15 問 (15)	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準
二	古文 (平安・作り物語) 作者未詳 『堤中納言物語』  ○行数：35 行	浮気をした夫が、新しい妻と元の妻との間で折り合いを付けようとする場面。問五の現代語訳は「人数」の訳出がポイント。問八の内容説明問題は「端つかたにおはせよかし」という表現を押さえる。問十の現代語訳は「ありなむかし」の「な」が強意の助動詞、「む」が推量の助動詞である点を押さえつつ、「これ」が誰を示すかを考える。 ※ (昨年度) 鎌倉・説話、50 行、14 問 (20)	標準  〈問題文〉 標準  〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西学院大学の問題文は通常 30 字/行 (19 行/段、2 段/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	14 問 (14)	14		2	3		1	5				3	
二	12 問 (16)	16			3			2	1	3		7	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>ジャンルを問わず、さまざまなテーマの長文を読む練習をしよう。また、漢字や語句問題などの知識問題も多く出題されるので、対策を怠らないこと。</p> <p>〈古 文〉</p> <p>読解の際は、大意をとらえるだけでなく、各表現を丁寧に読む練習をしよう。関西学院大学は文法や語句問題も出題頻度が高いため、基本事項の確認をくり返しおこなっておくとよい。</p>